岡田武家文書目録解題

岡田武氏（上越市昭和町在住）から寄贈された 25 点の文書である。この資料は平成 29 年（2017）に立命館大学の片山真理子氏によって調査され、調査シート〔資料番号 1505-24〕を作成した上で、紙に包み木箱に入れて保管されていた。今回、公文書センターへの寄贈にあたり、片山氏の整理番号順に目録を作成し直し、当センターの封筒・保存箱で保存することとした。

岡田家は、かつては大鋸町（現仲町６丁目）に間口４間の住居兼作業場があり、武氏はその家で幼少期を過ごした。家伝によると、先祖は慶長 19 年（1614）３月から７月の高田築城に際して全国から集められた職人の一人で、京都から招かれた宮大工の棟梁であった。以来岡田家は代々大工を生業としており、武氏で 20 代目であるという。本資料群の資料は数点を除いていずれも大工や建具師等にかかわる資料である。

高田城下の個別町や寺町の形成については、資料が十分ではなく明確になっていない点も多いが、1600 年代末までに順次整備されていったものと考えられている。大鋸町は町名の示す通り大鋸を扱う大工や木挽が集住したことに由来する町名である。「正徳年間高田町各町記録」（『新潟県史』資料編６　近世Ⅰ）によれば、正徳２年（1712）には、高田城下の大工が３組に分けられ、そのうち大鋸町組は棟梁嶋村紋左衛門配下に 56 人の大工がいたことが記録されている。岡田家の先祖もこの中の一人であったのかもしれない。

また、岡田家の家伝に彌兵衛が約 200 年前の関山神社再建、政吉が本誓寺再建・改築のそれぞれ棟梁を務めたことが伝えられている。関山神社は文政元年（1718）に社殿再建、本誓寺は大正４年（1915）と昭和２年（1927）に本堂の再建と改築を行っているが、本資料群にそれらの普請における両人の働きを明らかにするものは見当たらなかった。

本資料群の中に岡田姓の名前が確認できる資料として、岡田逸之助と記された文書３点がある。３点とも資料の所有者として記載されており、１点目は棟上式で読み上げられる祝詞の折本〔資料番号 1505-13〕、２点目は社寺６棟分の側面指図〔資料番号 1505-15〕、３点目は 47 種類の棚の仕様書〔資料番号 1505-18〕いずれも近代以降の印刷物と考えられる。

本資料群の中で最も多いものは、欄間もしくは建具等の彫物の下絵と思われる墨絵 10 点であり〔資料番号 1505-3～12〕、いずれも花鳥を描いたものである。その他に仏寺の堂舎の指図、上棟式・地鎮祭の手順を記した文書、風水に関する資料等がある。